
歴史に残るプロ野球 ～伝説の名場面～

ポールカラスコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歴史に残るプロ野球　　～伝説の名場面～

【Nコード】

N9506W

【作者名】

ポールカラスコ

【あらすじ】

2011年プロ野球は誕生から77年になる。そこで、私が選んだ1958年以降の名場面を振り返ろう

プロ野球77年を向えて

前書き

この小説はプロ野球の名シーンをまとめた。独断ですが多少はご了承下さい。それではまえふり

1934年初めて日本にプロ野球団ができてからの77年間、数々の名勝負を繰り広げてきた。では、あの1958年の長嶋茂雄の4打席連続三振から54年を振り返る

2011年プロ野球は新たな1ページを開いたゴールデンキーの当たり年だった。日ハム斎藤を筆頭に、巨人沢村、阪神榎田、西武牧田など優れている選手ばかりだ。それに、人気も申し分ない。そして、9月にマー君VS佑ちゃんの対決も実現！プロ野球は新たな名場面を産みだそうとしている

長嶋茂雄デビュー戦4三振（前書き）

国会でも話題になった1800万の年棒の男のデビュー戦

長嶋茂雄デビュー戦4三振

1958年4月5日の開幕戦。長嶋茂雄のデビュー戦は散々だった。国鉄×巨人。国鉄先発金田正一。後の400勝投手である。第一打席空振り三振フルスイングもかすらなかった。

第二打席もカーブにタイミング合わず三振

第三打席やっとハーフスイングがファールチップ。しかし三振。バットに当たったのはこの一回のみ

第四打席も空振り三振

すべてが渾身のフルスイングでの空振り三振。

翌日も金田に三振を取られている

分析

あの三振をいろいろな状況から考える

まずは調子が悪かった。プロではそんなことは禁句ですが、「もしも」の話です。調子が悪かった。その可能性は低いんですが、現に4月7日に初ヒット、15日には初ホームランを放ち、調子を上げてきた。その事から考えると、開幕は調子が悪かったかもしれない。続いて一番可能性の高いレベルの違い。しかしオープン戦もそこそこの成績はあげていたことを考えると、矛盾する。しかし相手は大投手やはりこの可能性が一番高いか
最後緊張していて力が出し切れなかった

結果

彼は開幕戦に緊張と相手が第投手だった。これが真相でしょう

長嶋茂雄デビュー戦4三振（後書き）

次回は1958神様仏様稲尾様西鉄奇跡の三連敗からの日本一まさかの稲尾4連投にせまります

58年神様仏様稲尾様（前書き）

当たり前ですが僕生まれてません

58年神様仏様稲尾様

みなさんは聞いたことがあるだろうか？

1958年V5を達成した巨人と野武士軍団西鉄の日本シリーズなんと巨人は3連勝の後4連敗と言う史上初の記録達成！しかも投げたのは4戦とも稲尾が投げた。

このケースは1989年も同じ（この時も巨人は関わっている）
それでは何故出来たか検証

・まずはピッチャー。これ決め手。彼のスタミナはハンパなかった。元阪神と言う書籍で小山氏が「昔は連投が当たり前」略々今は肩は消耗品だからとか言う」と語った。これを見てオオツって思った。確かに根藤根藤雨恨藤などの名言も有るだけある。そしてその後、小山氏はQ良い現役投手は誰ですか？と言う質問に「うーん・・・ダルビッシュも・・・略ええ投手はおらんわ。20勝取ると来年は崩れる」なんて事も言っていましたし、今は言い投手がいません。それくらい稲尾さんは凄かった（らしい・・・）

58年神様仏様稲尾様（後書き）

なんか文字数少ない・・・

次回は1959年。あの超有名な天覧試合に迫る

1959年天覧試合（前書き）

ふう

1959年天覧試合

天皇様が野球を見にきたのは1959年6月25日の後樂園球場での読売ジャイアンツ対大阪タイガースのナイトゲーム。大阪タイガース先発小山、読売ジャイアンツ先発は藤田という両先発。

試合は、大阪タイガース3回表小山自らのタイムリーで一点先制。

巨人は5回裏長嶋、坂崎の連続ホームランで逆転も6回表三宅のタイムリー、藤本のホームランで逆転。

7回裏巨人は王貞治のホームランで同点とすると、阪神はルーキーの村山にスイッチ。そして、迎えた9回裏長嶋のホームランでサヨナラホームランで試合を決めた。サヨナラを打たれた村山は生涯あれはファールだったと語っている。（ポールぎりぎりだった）

天覧試合の影響力はどうだったか？

巨人当時監督の水原茂は試合前から口数が少なかったと言う。長嶋は、天覧試合で1番の活躍。天覧試合には強かったのではないのだろうか？それを語るのかのように、1966年のドジャースとの日米野球にも天皇が観戦。その時もホームランを放っている。お祭り男だった長嶋らしいホームランだった。

しかも、長嶋が、ホームランを放ったのは21：12分で天皇が帰らなければならぬ直前だった。

大阪—001020000—3

巨人—000200201×—4

勝：藤田14勝2敗

負：村山5勝7敗

本：大阪：藤本12号

巨人：坂崎5号王4号長嶋12、13号

1959年天覧試合（後書き）

次回は、1960年大洋三原マジックにせまる？

1960年最下位からの日本一。

三原脩。この男はハンパない。三原は元々巨人の選手。1938年に現役を引退。その後、1947年から巨人の監督になり、日本一に。その後、水原との不仲によって誕生したての西鉄へ。そこでも日本一。特に1958年は圧巻だった。（第二回参照）

そして大洋ホエールズの監督に就任した訳だ。だがここまで輝かしい実績を持つ三原でも大洋を優勝させるのは無理だと大半がそう思った。当時投手が7名野手が15名だったことから考えると当たり前か。そして1960年のペナントが開幕した。しかし、いきなりの6連敗とエース秋山登の離脱と大ピンチに。しかし、ここからが三原マジック。彼は昨年0勝の榎藤をリリーフに、遊撃手のレギュラーの麻生を代打で重点的に起用。二塁手のレギュラーに近藤を、近鉄からトレードで移籍の鈴木を遊撃手に固めた。そして、1点差の試合が33勝と強く、最終的に70勝で巨人に競り勝ち優勝。そして、日本シリーズは西本と共に、新人監督対決が話題を呼んだ。そして迎えた日本シリーズ。当初、マシンガン打線と呼ばれた打線を持つ大毎が有利と思われたが、なんと結果は大洋の4連勝。それも全て1点差だった。（史上初の快挙）

そのため、人々はこれを三原マジックと呼んだ。

—————

その裏ではこんなエピソードも「三原さんはシリーズ前の記者会見で自分のペースで話した為に西本監督はリズムに乗れてなかった。」

（出典：週刊ベースボール）

と話すのがうまかった。このあと、三原は1968年まで大洋の監督、その後は近鉄、ヤクルトと渡り歩き、日本ハムの、球団社長で、1978年の江川事件で最後まで、巨人入りを反対した。1983年にプロ野球殿堂入りし、1984年に心不全。72歳でこの世を去った。

一本足打法

1962年7月1日大洋対巨人のダブルヘッダーの第一戦に王貞治の代名詞とも言えよう、一本足打法がスタートした。この時、4打数2安打4打点と大暴れこの1試合が王貞治の人生を変えたことは間違いない。

だが、一本足打法誕生の経緯を王自身しっかり覚えてないと言う王本人によれば「一本足を始めた経緯は記憶が定かでない。（中略）僕自身は普通の打ち方で打ってるつもりだった。でも、4年目のシーズン中にどうしても食い込まれることが多くて、それならいっそのこと右

足を上げて打ってみると。その打席で大爆発した」とインタビューで答えているほど。

その後、65試合で29本とホームランを量産。なんと、144試合でこのペースで打つと、58本ホームランを放てる計算だ。

しかし、荒川コーチは、王に対して一本足打法を辞めろというが、その年55本のホームランでその気がなくなったと言う。

その後、王は1973年に三冠王になり、長嶋の引退で名実共に巨人の顔になったが、1975年に怪我でホームラン王のタイトルを明け渡す。

しかし、翌1976年は見事カムバック。長嶋監督初の日本一に大きく貢献した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9506w/>

歴史に残るプロ野球 ～伝説の名場面～

2011年11月21日10時57分発行